

# The World is Small!

## ～ Let's skype with JOCV in Malawi! ～

柴田 邦博

SHIBATA KUNIHIO

佐賀県立武雄高等学校（佐賀県）

担当教科：英語科

●実践教科：英語

●時間数：1時間

●対象学年：高校1年生

●対象人数：40名

### カリキュラム

#### ■実践の目的

- Skype 交流を通し、教科書で学習するマラウイを身近に感じさせ、現地の状況への理解を深め、興味意欲を喚起する。
- 本校の教育目標である「国際社会の発展に貢献できる人材」のロールモデルである青年海外協力隊との交流をすることで、生徒の国際的視野を涵養する。

#### ■授業の構成

担当学年（高校2年生）のコミュニケーション英語Ⅱの授業内で取り扱うことも考えたが、既に1学期の段階でマラウイのことを扱ったレッスンの学習を終えていたため、高校1年生を対象にすることとした。コミュニケーション英語Ⅰでマラウイ人の「風をつかまえた少年」ウィリアム・カムクワンバ氏の自伝を扱ったレッスンの導入として高校1年生2クラス（1年3組、1年6組）で同一内容の授業を実施した。なお、私の担当学年ではないため、高校1年生担当の教員とのチーム・ティーチングという形をとった。

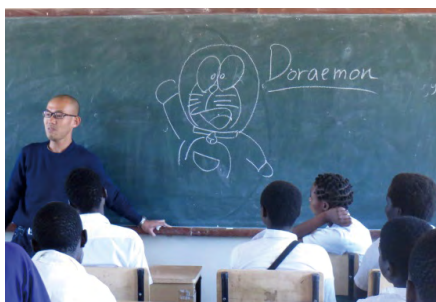
### 授業の詳細

#### 1 導入 ～マラウイ・クイズ（15分間）～

8月の事後研修で他の研修参加者と作成したマラウイに関するクイズを実施した。普段の授業と同様に説明等はすべて英語で行った。ただし、解説の補足説明のスライドには一部日本語を用いた。選択問題については生徒たちが所有しているタブレットPCでSKYMENUという学習支援システムを介して回答してもらった。

Q1 Where are these pictures taken? (これらの写真はどこで撮られた?)

マラウイで撮影した様々な写真からその写真がどこで撮られたものを推測してもらった。



Q2 Where is Malawi? (マラウイはどこにある?)

Europe / Asia / **Africa** / South America

Q1 で見せた写真からアフリカか南アメリカと推測した生徒が多かった。

Q3 What is the capital city of Malawi? (マラウイの首都はどこ?)

Nairobi / Cairo / **Lilongwe** / Bangkok

正解発表後、首都リロングウェの写真で見せ、生徒が思い描いているアフリカへのイメージを変えることを心がけた。



Q4 What is the main food of Malawi? (マラウイの主食は何?)

rice / bread / potato / **nsima**

シマがメイズ (トウモロコシ粉) から作られること、多くの家庭や職場で食事前に作られていることなどにも触れた。



Q5 What is the official language of Malawi? (マラウイの公用語は何? 1つはチェワ語、もう1つは…。)

One is Chichewa. The other is … **English** / French / Japanese / Spanish



公用語が英語だからといって、すべての国民が英語を話せるという訳ではないということ、かつてイギリスの植民地であったことから、イギリス英語が使われていることにも触れた。(Centre など)

Q6 What is the life expectancy in Malawi? (マラウイの平均寿命はどのくらい?)

( 54 ) years old.

まず、“life expectancy”の意味を確認した。答えを発表した後、国民がだいたい54歳くらいで亡くなるという意味ではなく、5歳未満で死亡する乳幼児が多いため平均寿命の年齢が低下することを補足した。

Q7 What is the literacy rate of Malawi? (マラウイの識字率はどのくらい?)

( 75 ) percent.

まず、“literacy rate”の意味を確認した。正解を発表すると生徒たちは意外と数値が高いという印象を持ったようだ。

Q8 What is the poverty rate in Malawi? (マラウイの貧困率はどのくらい?)

( 72.2 ) percent.

まず、“poverty rate”の定義(=1日1.25ドル以下で生活している人々の割合)を確認した。生徒たちは多くの人が貧困に苦しんでいることは分かったようだが、1.25ドル以下というのがどれほどの貧困を意味するのかを想像するのは難しかったようである。

2 展 開 ～マラウイで活躍する青年海外協力隊と Skype 交流 (30分)～

マラウイ研修で訪問した木村隊員(1-6)、角田隊員(1-3)に協力をしてもらい、Skypeで本校とマラウイをつないだ。交流の前に隊員の活動について簡単に説明した。Skypeがつながった瞬間、教室で歓声が起こったのが印象的だった。質問をしたい生徒たちが1人ずつ電子黒板の前に出てきて、事前に考えてきた質問をするという形をとった。英語の授業中なので当初英語で行うことも考えたが、興味意欲の喚起や日本人に対して質問をするということなどから鑑みて、日本語で行うことにした。最初は恥ずかしがっていたようだが、時間が経つにつれ、雰囲気も和らぎ、しばらくしたら電子黒板の前には質問をしたい生徒で行列ができていた。途中回線がとぎれることはあったものの、電波状況は概ね良好だったように思われる。



### 【質問例】

- ・現地の食べ物で一番好きな食べ物は何ですか？
- ・サッカーはどのくらい人気があるか。どのようにしてやっているのですか？
- ・マラウイに行って感じた日本のすごさとは？
- ・マラウイの治安はどうですか？
- ・日本に帰って一番にしたいことは何ですか？
- ・彼女はいますか？

質疑応答の後、それぞれの隊員から生徒たちへメッセージをいただいた。

### （木村隊員のメッセージ：要約）

日本にいたらなかなか考えないが、このような授業は発展途上国のことを考える機会になる。僕と話すことで何か少しでも感じてもらえて、何かのきっかけになればと思う。国際協力は目指して損がない分野。それは自信を持って言える。勉強にせよ部活にせよ今やっていることは無駄にはならない。ぜひ高校生活を満喫して欲しい。



### 3 まとめ ～ライティング（5分間）～

導入のマラウイ・クイズや青年海外協力隊員との Skype 交流で得た情報を英語でまとめる活動を行った。タブレット PC でタイピングしたものを佐賀県独自の学習支援システム SEI-net を介して提出をさせた。

## 【+α 文化祭 たけお万博 Malawi 館】

より多くの生徒や保護者、一般の方々にマラウイのこと、本研修で学んだことを知ってもらうため、9月の文化祭において、「Malawi 館」という展示を実施した。

### 主な展示・催物内容

#### ・シマ、コンドレー販売・試食会

今回の研修の参加者2名と過去にマラウイでJOCVとして活躍された方1名が来校され、シマ、コンドレーを作ってもらい、販売、試食会を行った。食べやすいようにと協力して頂いた方に海苔の佃煮まで用意してもらった。生徒にとっては少し抵抗があったようだったが、食べた生徒は「おいしい」と口にしていた。

#### ・JOCV とのビデオ通話交流

WebEx というビデオ会議システムを用いて、マラウイにいる青年海外協力隊とビデオ通話を行った。希望する生徒が自由に会話するという形式をとった。

#### ・Malawi Quiz

マラウイに関するクイズを掲示し、来場者に答えを考えてもらった。

#### ・スライドショー上映

研修で撮影した写真で作ったスライドショーを教室の電子黒板で上映した。

#### ・Where do you want to live in the future?

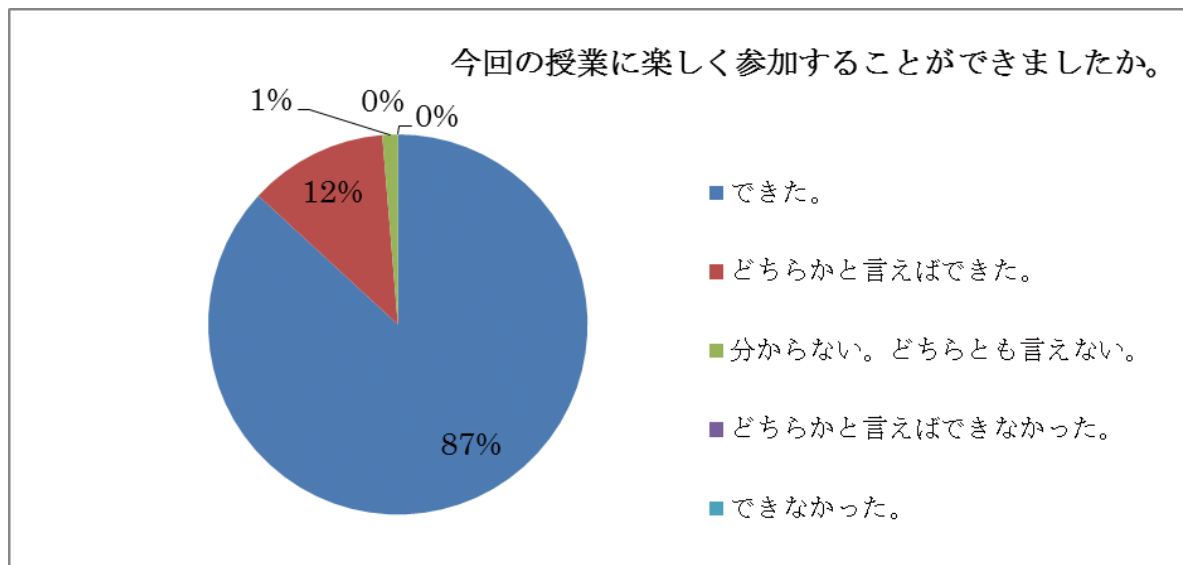
世界地図の将来住みたい国のところにシールを貼ってもらった。

#### ・マラウイの物品販売会

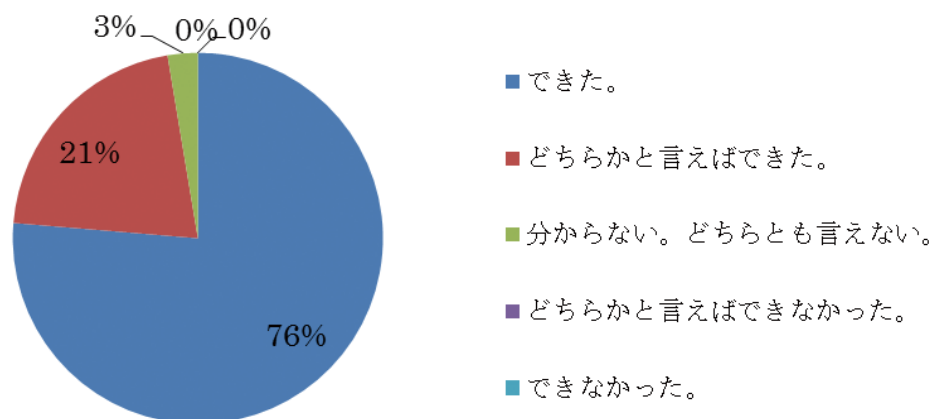
研修の際に購入したもの（ムズズコーヒー、モリンガパウダー、ブックカバーなど）を販売した。現地の物価を認識してもらうため、現地と同じ値段で販売した。

## 成果と課題

### ■ アンケート結果



今回の授業でマラウイへの理解を深めることができましたか。



① 「今回の授業に楽しく参加することができましたか。」という問いには99%、「今回の授業でマラウイへの理解を深めることができましたか。」という問いには98%の生徒が肯定的に回答（「できた」「どちらかと言えばできた」）していることから、今回の授業は生徒には概ね好評だったことが窺える。

② Skypeは生徒が世界を身近に感じる有効な手段であることを実感した。

※生徒の感想（抜粋：原文ママ）

- ・こちらから一方的に質問するだけでなく自由に対話することができればもっと深い授業になると思った。
- ・とても遠いところなのでSkypeで繋がったことに驚きました。そして質問したり、やり取りができたので、それにも驚きましたが楽しかったです。世界のいろんな地域にいる人と話せる機会は少ないので、貴重な体験ができてよかったです。
- ・世界とつながっている感じがしてよかった。
- ・世界が小さくなったように思い、身近な存在になった。
- ・実際に現地で働いている方の声が聞けて、ただ話を聞くよりも関心を持って授業に参加できたと思います。また、機会があったらやってみたいです。
- ・現地の人と話してみるのも良いと思うので次は現地の人と話す授業があればいいなと思いました。
- ・マラウイの状況がリアルだったので面白かった。
- ・電波環境が悪かったようなので、スムーズにやりたい。

③ 担当学年（高校2年生）で使用している教科書でもウィリアム・カムクワンバ氏の自伝を扱ったが、研修前に既に学習を終えていたので、日々の授業の中で体系的に授業を計画できなかったことが悔やまれる。ウィリアム氏の自伝は高校の複数の英語の教科書で扱われているので、次年度以降、このトピックを扱う際には計画的に授業を実践したい。

④ 本授業は、生徒の興味意欲の喚起に焦点を当てたため、生徒の深い思考を促す活動の時間をとることができなかった。

参考資料・教材など

ELEMENT English Course I Lesson 8 “The Boy Who Harnessed the Wind”